

観光政策パッケージ 2026

～ 観光産業の発展と地域活性化の実現にむけて ～

奈 良 県

観光政策パッケージ策定の趣旨

「奈良県観光総合戦略」(令和3年度～7年度)が今年度末に終了することから、今後、観光政策の方向性を示すものとして、年度毎に、『観光政策パッケージ』を策定することとしました。

観光政策パッケージは、観光政策のビジョンと重点施策を明確にすることで、観光政策に関わる県職員や市町村職員、観光協会などの関連団体、観光事業者等との間で、何に力を入れるのか、何を優先して進めるのかを共有し、県全体で同じ方向に向かって観光を推進する道しるべとなると考えています。

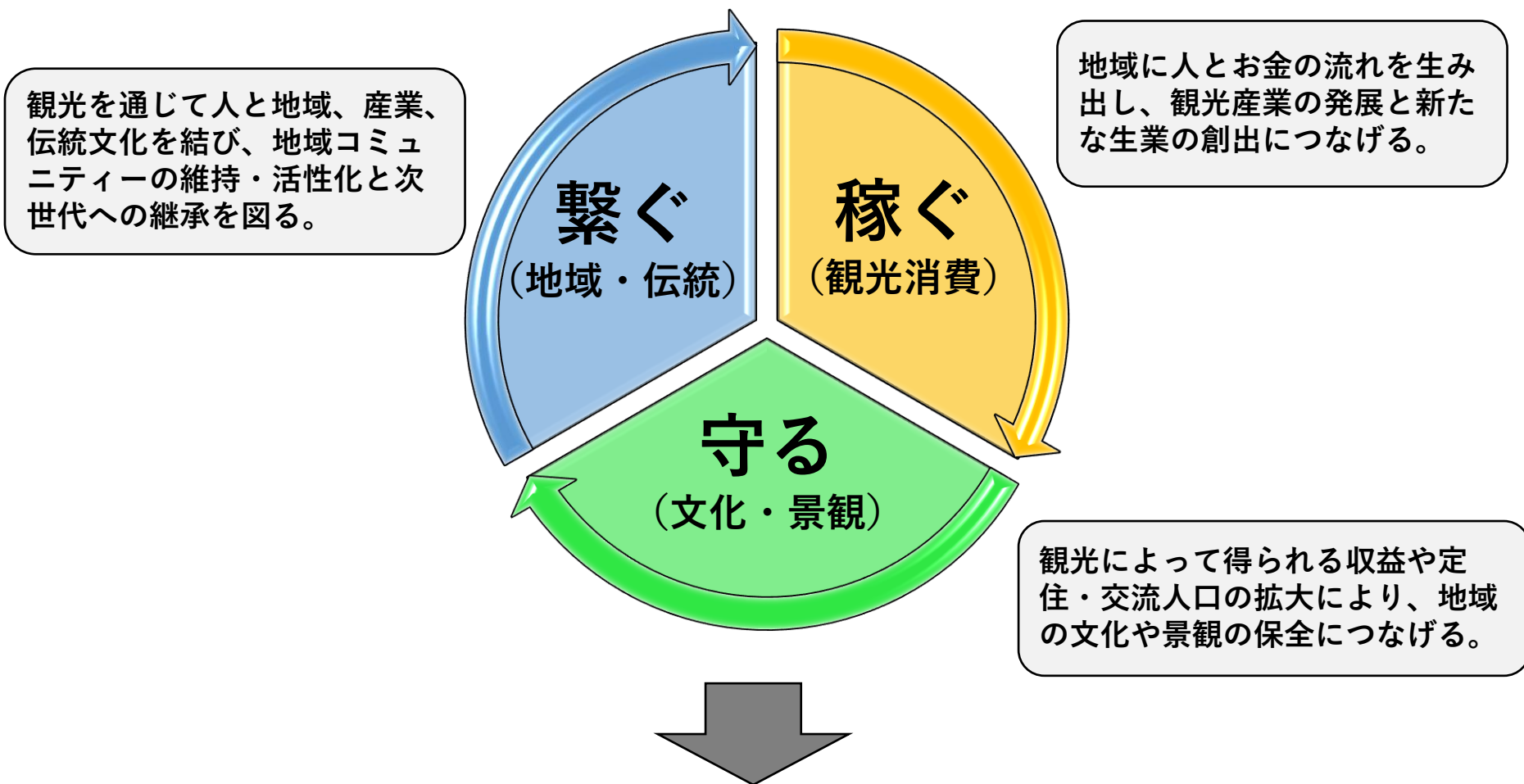
また、その年度の重点施策を示すことで、県観光局が責任を持って実行する内容を明らかにし、限られた財源・人員を重点分野に投入することが可能になります。

加えて、年度毎に、市場動向や地域の実情、奈良県観光戦略本部※での議論・意見を踏まえながら、重点施策を柔軟に組み替えることで、変化の激しい観光分野に機動的に対応することが可能になるとともに、施策の成果や課題を毎年検証し、その結果を翌年度の政策に反映できることが大きな利点と考えます。

※令和6年5月に立ち上げた、本県の観光政策に民間の知見からアドバイスをいただく会議体

観光政策のビジョン

観光消費の拡大と滞在の深化・広域化を通じて、「安い・浅い・狭い」の構造からの脱却を図り、稼ぐ(観光消費)、守る(文化・景観)、繋ぐ(地域・伝統)の好循環へとつなげ、県全体の持続的な活力創出を図る。



「観光政策パッケージ2026」で、稼ぐ観光・持続可能な観光を推進

数値目標(KPI) 目標年度2030年

<参 考>

2024年

- ・ 観光消費額 **4, 200億円** (2, 060億円)
- ・ 延べ宿泊者数 **500万人** (283万人)

2026年度(令和8年度)の観光政策の柱

『奈良県観光戦略本部』を中核に、民間のアイデアや専門的知見を積極的に取り入れ、観光産業の発展と地域活性化につながる戦略的な政策を推進。

これまでの同本部での議論を踏まえ、2026年度(令和8年度)からは観光政策パッケージとして4本の柱に基づき、各取組を実施していく。

(1) 持続可能な観光の推進

(2) 広域周遊観光の促進

(3) 宿泊観光と消費の拡大

(4) 観光DXの推進

観光政策のビジョンの達成に向けた市町村との連携強化

(1) 持続可能な観光の推進

- 単なる観光誘客から、**観光消費に繋がる施策への重点化**
- 繁閑ギャップの解消、人材不足への対応、オーバーツーリズム対策、交流・移住定住の推進、地域資源の保全・活用など、**「観光×地域課題解決」への取組**
- 一般財源以外の**観光振興財源(国庫活用、ふるさと納税、寄付金等)の確保**

(2) 広域周遊観光の促進

- **観光客の目線に立った広域周遊の促進(周遊エリア間で連携したプロモーション等)**
- 観光消費に繋がる地域コンテンツの高付加価値化・商品性向上と販売経路の確保
- 旅行会社・メディア等を対象としたセールス、ファムトリップ、旅行商品商談会など実施
- 地域の観光推進母体である**観光協会の強化、広域化の推進(地域連携DMO化、広域連携チームの構築)**

(3) 宿泊観光と消費の拡大

- **宿泊施設誘致に向けた用地・物件**(未利用資産、民間所有資産等を含む)の情報提供
- **既存宿泊施設の事業承継・業態転換・廃業等に関する意向などの情報提供**
- 県が実施する宿泊施設関係者(ディベロッパー、運営者等)を対象とした現地確認、誘致マッチングセミナー等の開催

(4) 観光DXの推進

- ポータルサイト『みるなら』を活用したデータ活用・マーケティングの推進

(1) 持続可能な観光の推進

- ・奈良公園を守りつつ未来へつなぐ取組として、令和8年度から官民協働の協議会の設立等を目指す
- ・観光客と住民が互いを尊重し、地域の自然・文化・経済を守りながら共に恩恵を受ける、持続可能な観光地域づくりを推進
- ・地域を守り、持続可能な観光の実現に向けた新たな財源確保の仕組みを検討し、令和8年度から実施

令和7年度の取組と成果 (81,606千円)

奈良公園の環境を未来へ引き継いでいくための取組

(6,600千円)

▷ 奈良公園におけるマナー啓発の推進

- ・奈良のシカの保護育成・接し方に関する啓発活動の推進
- ・ポイ捨てごみに関する実証実験 など

持続可能な観光地域づくりの推進

(64,000千円)

▷ 地域の特性や課題に焦点を当てた観光地域づくりの取組を実施

- ・地域ならではの観光コンテンツの集約・情報発信
- ・電動シェアサイクルによる周遊促進
- ・Googleマップを活用した観光施設情報の発信強化
- ・飛鳥・藤原地域をモデル地域とした持続可能な観光地域づくり・オーバーツーリズム対策等に関する取組
- ・明日香村「ベストツーリズムビレッジ」認証取得の支援
- ・オーバーツーリズム対策として、奈良公園に集中するインバウンドの分散 など

持続可能な観光の実現に向けた新たな財源確保の仕組みの検討(実証実験等)

- ▷ 新たな財源として、「寄付金」や「協力金」の確保の仕組みを検討 (11,006千円)
- ▷ 販売型寄付の仕組みとして、公式音声ガイド(音源ダウンロード式)の実証実験を実施



【駅前に設置した大型啓発看板】



【電動バイク(glafit)による実証実験】



【寄付付き音声ガイド(実証実験)】

(1) 持続可能な観光の推進

令和8年度取組(135,900千円)

◎ 令和8年度予算事業 ○ 予算外で取り組むもの

◎奈良公園を守り未来へつなぐ取組 (30,900千円)

- ・奈良公園の良好な環境を守り、未来へ引き継いでいくため、観光客の増加により顕在化してきた、不適切なシカとの接し方やごみのポイ捨て、芝の踏み荒らしなど、奈良公園内の様々な問題に対し、関係者の協働による取組を推進
 - 行政や民間等の関係者が、奈良公園の諸課題の解決を協働して進めていくための協議会の設立
 - 植生環境を守る取組(芝地の再生、外来植物[ナンキンハゼ]の駆除)
 - ごみの置き去りの多い公園内のトイレ付近への、スマートごみ箱の常設化

◎市町村や観光関係団体と連携した持続可能な観光地域づくりの推進 (85,000千円)

- ・地域の実情に応じた試行的取組を実施
(観光コンテンツ・観光ルート造成、地域貢献型ツーリズムの企画、地域プロモーション、
受入環境整備・向上、繁閑ギャップ・人材不足・オーバーツーリズム等の地域課題への対策など)
- ・地域の観光課題の解決に資する取組に対する支援を実施

◎持続可能な観光の実現に向けた新たな財源の確保 (20,000千円)

- ・県内観光地の魅力向上と持続可能性を両立させるための、環境保全や観光地のハード整備の充実、適切な維持管理の継続を行うための新たな財源確保策の実施
 - 販売型寄付(寄付付き音声ガイド、寄付付きスタンプラリー等)の実施
 - ガバメントクラウドファンディングの実施
- (実施に際しては令和7年度の実証実験の結果を踏まえ、観光団体や民間事業者等と連携)



【奈良公園に設置のスマートごみ箱】



【インバウンド観光客で賑わう
奈良公園周辺の様子】

(2) 広域周遊観光の促進

- ・大河ドラマ効果や「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録(予定)による中南和観光の盛り上がりを見据え、点から線、面へと転換していく県内外の広域周遊観光の推進
- ・地域の特色に応じた、観光コンテンツの充実、高付加価値化の推進とともに、従来型観光からの転換を図る
- ・「稼ぐ・守る・繋ぐ」観光の主体となり、地域との架け橋となるDMO、観光協会等の体制強化

令和7年度の実績と成果 (122,587千円)

万博を契機とした広域周遊の促進

(45,587千円)

- ▷ 観光リコメンドサービス「ならいこ」(WEBアプリ)の内容ブラッシュアップ、広報活動の実施
- ▷ 奈良国立博物館「超国宝展」と連携した「奈良の国宝めぐり」デジタルスタンプラリーによる中南和エリアへの誘客促進、JR東海との連携企画である飛鳥エリアのガイドブックを首都圏を中心に展開



【大河ドラマ誘客プロモーション】

地域と連携した広域周遊の促進

(77,000千円)

- ▷ 大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送を契機に、主人公・秀長公ゆかりの地域(大和郡山、桜井、宇陀、高取)への誘客、観光消費の拡大を図ることを目的として、「奈良県大河ドラマ『豊臣兄弟！』観光促進協議会」を設立。県内外のイベント等へのブース出展など、誘客PRを実施
- ▷ JR万葉まほろば線等を巡るデジタル周遊パスと連動した県中南部エリアへの周遊・滞在を促進する「ならSLOW&LOOPプロジェクト」を官民地域一体で推進
 - ・沿線の観光スポット・グルメ等の情報発信
 - ・スタンプラリー周遊企画
 - ・駅舎を活用した地域イベントの実施 など



【ならSLOW&LOOP】

(2) 広域周遊観光の促進

◎ 令和8年度予算事業 ○ 予算外で取り組むもの

令和8年度の実施(259,500千円)

◎大河ドラマや世界遺産登録を契機とした広域周遊の促進 (239,500千円)

- ・大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放映を契機として、豊臣秀長公ゆかりの地を中心とした県内外の周遊企画の展開、交通事業者と連携した取組、プロモーションツール等の展開、SNSを活用した情報発信等を実施
- ・世界遺産登録を見据えて、飛鳥・藤原地域を中心に3つの世界遺産エリア及びその周辺への広域周遊を促進
 - 広域周遊プラン・観光コンテンツの充実と高付加価値化
 - 国内・海外向け情報発信・プロモーション など
- ・地域の特色に応じた周遊・誘客施策の企画、実施(地域の観光団体等による周遊企画への支援、スタンプラリー周遊企画、県内DMO・DMC^(注)による観光コンテンツの販路形成など)

◎県域を越えた広域周遊の促進(紀伊半島周遊、関西圏周遊等) (20,000千円)

- ・インバウンドをターゲットに紀伊半島の広域周遊を促すため、和歌山県・三重県等と連携して海外旅行会社等へのプロモーションを実施

○観光地経営主体としてのDMO^(注)、観光協会等の体制強化

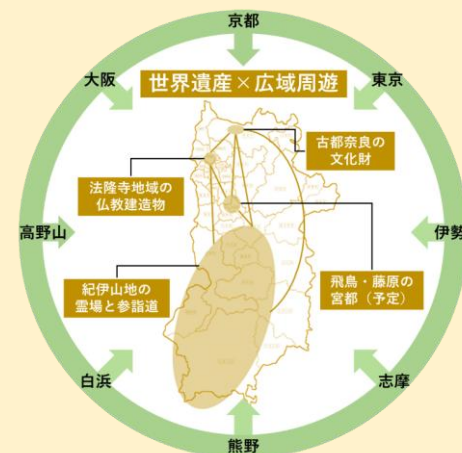
- ・地域の観光協会やDMOが「稼ぐ・守る・繋ぐ」観光の主体となり、地域主体で観光誘客、広域周遊、観光地域づくりを推進できるよう、観光協会等の人材確保、データ分析・マーケティング能力の向上、関係者間の連携強化、広域連携等の推進を支援

(注)DMO:観光地域づくり法人(Destination Management/Marketing Organization)、DMC(Destination Management/Marketing Company)

地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定し、着実に遂行する機能を備えた法人(会社)



【大河ドラマ「豊臣兄弟！」県特設HP】



【世界遺産×広域周遊のイメージ】

(3) 宿泊観光と消費の拡大

- ・宿泊施設の少なさ、宿泊者数の低迷を根本的に打開し、宿泊観光と消費の拡大を図るため、積極的な宿泊施設誘致、滞在・宿泊環境の魅力向上を推進
- ・宿泊の動機となる夜の賑わいや早朝の静寂などを活かした観光コンテンツの充実を促進

令和7年度の実施と成果（289,424千円）

観光事業者と連携した滞在型・宿泊型観光の促進

（189,917千円）

- ▷ 地域ならではの滞在・体験型観光コンテンツの集約、情報発信
 - ・観光コンテンツ集の取りまとめ
 - ・Webサイト上での発信
 - ・地域事業者と連携した首都圏商談会の開催 など
- ▷ 宿泊施設立地セミナーを開催し、奈良県魅力をPRするほか、宿泊施設立地促進事業補助金により、県内における宿泊施設の誘致を促進



【NARA YAMANOBE ブランドブック】

万博を契機とした宿泊誘客の促進

（56,000千円）

- ▷ 「奈良に泊まって万博へ！」をテーマとしたショート動画「ナラ・ニ・トマッテ卿」をSNSを中心に展開（再生数600万回以上）
- ▷ 海外OTA（オンライン・トラベル・エージェント）と連携した観光情報の発信
 - ※大手宿泊予約サイト「エクスペディア」において、奈良県宿泊予約額が24%増
 - [欧米豪市場・対前年同期比]



【宿泊施設立地セミナー】

宿泊の動機となる夜の賑わいの創出

（43,507千円）

- ▷ 奈良公園バスターミナル内に、日本酒等を提供する店舗「NARAMILE」を開設
- ▷ 奈良公園周辺の文化施設（奈良国立博物館、奈良県立美術館）と連携した、夜の観光コンテンツ造成



【ナラ・ニ・トマッテ卿】

(3) 宿泊観光と消費の拡大

◎ 令和8年度予算事業 ○ 予算外で取り組むもの

令和8年度の取組(130,680千円)

◎宿泊施設の誘致・既存宿泊施設の魅力向上 (96,980千円)

- ・宿泊施設立地促進事業補助金について、小規模な施設も対象となるよう要件を見直して支援

R 7 年度

- ◆ 宿泊施設の新設
- ◆ 既存宿泊施設の増改築等

客室数	投資額	補助率	補助上限額
5～9室	1億円以上	10%	1億円※
10～19室	2億円以上		
20～29室	3億円以上		
30室以上	5億円以上		

※大規模施設は2億円

R 8 年度

- ◆ 宿泊施設の新設

客室数	投資額	補助率	補助上限額
1～4室※1	3,000万円以上	10%	1,000万円
5～9室	1億円以上		1億円※2
10～19室	2億円以上		
20～29室	3億円以上		
30室以上	5億円以上		

- ◆ 既存宿泊施設の増改築等

客室数の増加・高付加価値化を図るものに限定

客室数	投資額	補助率	補助上限額
要件無し	3,000万円以上	10%	1億円※2

※1 古民家を活用するものに限る

※2 大規模施設は2億円(奈良市以外)



【ビジネスマッチング商談会(イメージ)】



【OTA上の奈良県特設サイト(イメージ)】

- ・既存宿泊施設の魅力向上を図るため、宿泊施設と県内事業者とのビジネスマッチング商談会を開催

◎国内外OTAを活用した宿泊誘客の促進 (15,000千円)

- ・国内外OTAと連携し、新たな世界遺産として登録を目指す飛鳥・藤原エリアを中心とした本県の観光地や宿泊施設の魅力等をOTAサイト上にて発信



【“新日本三大夜景”若草山】

◎宿泊の動機となる夜の賑わいの創出 (18,700千円)

- ・魅力的な夜の観光コンテンツを造成し、民間事業者が採算の取れるビジネス環境を創出
 - 若草山の夜景や、吉城園の紅葉などの魅力を取り入れたコンテンツ造成
 - 若草山焼き行事での「高付加価値化体験コンテンツ」の造成(特別席の設定や、行事への参加 など)

(4) 観光DXの推進

- ・滞在・消費につながる観光施策を効果的に実施し、「稼ぐ」観光を実現するため、データに基づくマーケティングとデジタル技術の活用を推進

令和7年度の実績と成果（40,129千円）

観光消費額、エリア別周遊、顧客属性等のデータ分析

(5,200千円)

- ▷ 県と連携協定を締結しているNTT西日本やソフトバンク等と協働して、本県の観光の現状分析を実施
- ▷ 奈良県観光公式サイト「なら旅ネット」のアクセス分析と市町村への共有
 - ・閲覧者属性やアクセスページランキング等を分析
 - ※「なら旅ネット」は、年間約1千万アクセス



ひと目でわかる観光データ みるなら

奈良の観光の基本情報をこちらにまとめています。まずはこちらをチェック！

CHECK!



観光客の観光目的は？



観光客の滞在期間は？



観光客の人流は？



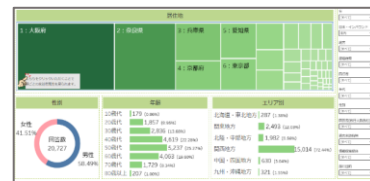
観光客の宿泊先は？

【「みるなら」トップページ】
(2025年度グッドデザイン賞受賞)

観光関係者におけるデータ活用の推進

(34,929千円)

- ▷ 奈良県観光データポータルサイト「みるなら」の運用開始(令和7年1月～)
(国や県の観光統計を利用。検索しやすいよう加工して公開)
 - ※「みるなら」は、2025年グッドデザイン賞を受賞(令和7年11月)
- ▷ データを活用した県観光施策の企画・実施、市町村等との観光地域づくりの推進
 - ・観光地域づくりの取組
 - ・県域を越えた広域周遊の推進
 - ・国内外OTAとの連携 など
- ▷ 「みるなら」の利用促進に向けた市町村や旅館・ホテル向け説明会の実施



【「みるなら」詳細分析ページ】



【「みるなら」操作説明会】

令和8年度の取組(70,630千円)

◎ 令和8年度予算事業 ○ 予算外で取り組むもの

◎観光データポータルサイト「みるなら」による観光関係者のデータ利用の促進 (50,630千円)

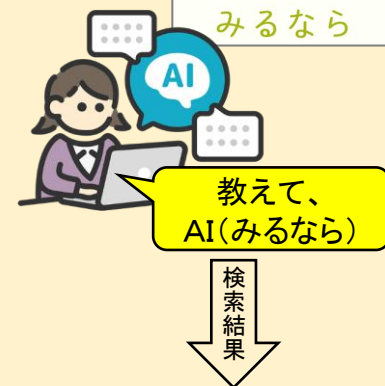
- ・クレジットカード等の消費行動データ、携帯電話等の移動情報データ、AIを活用したデータ検索機能など、観光関係者にとって活用価値の高い情報を、「みるなら」に搭載
- ・観光地経営に必要なデータを充実させるとともに、データを活用した観光施策の検討、企画、実施の定着を図るため、市町村や観光関係団体等への「みるなら」活用講習等を実施

◎データマーケティングの実施による、「稼ぐ観光」に向けた情報収集と分析 (20,000千円)

- ・通信事業者等が保有するデータ及びノウハウを活用し、課題解決への施策に繋がる分析を実施
(例:QRコード決済データを活用した夜間消費の実態分析、イベント開催時のエリア回遊の行動分析、車両通行データを活用した県内周遊状況の把握など)

○観光関係者にとって有用な「速報データ」の公表充実

- ・これまで、統計データ(宿泊統計調査:年間確定値)を翌年秋頃に公表してきたが、市町村や観光団体、民間事業者のデータ活用の促進と利便性の向上を図るため、「四半期毎の速報値」として迅速に公表



【AIによるデータ検索(イメージ)】